

国立国会図書館



新たな貴重書のご紹介

近代の印刷技術 1 金属凸版、木口木版

2011.11
No. 608

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
03(3506)3301(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
	※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	後日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求時間	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00	オンライン複写受付	月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30
	※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。		

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求時間	月～土曜日 10:00～17:15	後日複写受付	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	オンライン複写受付	月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。	
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求時間 火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

02 櫃 新村出の特製本

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 新たな貴重書のご紹介 第45回貴重書等指定委員会報告

16 誰もがアクセスできるアーカイブをめざして

ブリュースター・ケール氏の講演から

20 企画展示「ビジュアル雑誌の明治・大正・昭和」から

近代の印刷技術 1 金属凸版、木口木版

24 言葉のエッセイ 第10回 格変化

15 館内スコープ

データベースの維持管理 国会会議録・日本法令索引篇

25 本屋にない本

○「摺る 播鉢からみえる中世の社会 備前歴史フォーラム資料集」

○「ブリキとトタンとブリキ屋さん」

27 NDL NEWS

○法規の制定

28 お知らせ

○デジタルコンテンツの拡大

—『石巻日日新聞』号外のデジタル画像を提供開始

—デジタル化した蔵書34万点の提供開始

○「日本全国書誌」が変わります

○年末年始のご利用について

○歴史的音源の配信試行にあたり参加館を募集します

○『国際子ども図書館調査研究シリーズ』を創刊しました

○アジア言語OPACにインドネシア語・マレーシア語
図書館の書誌データを追加しました

○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

国立国会図書館の蔵書から

櫃 新村出の特製本

鈴木 宏宗



写真1 扉

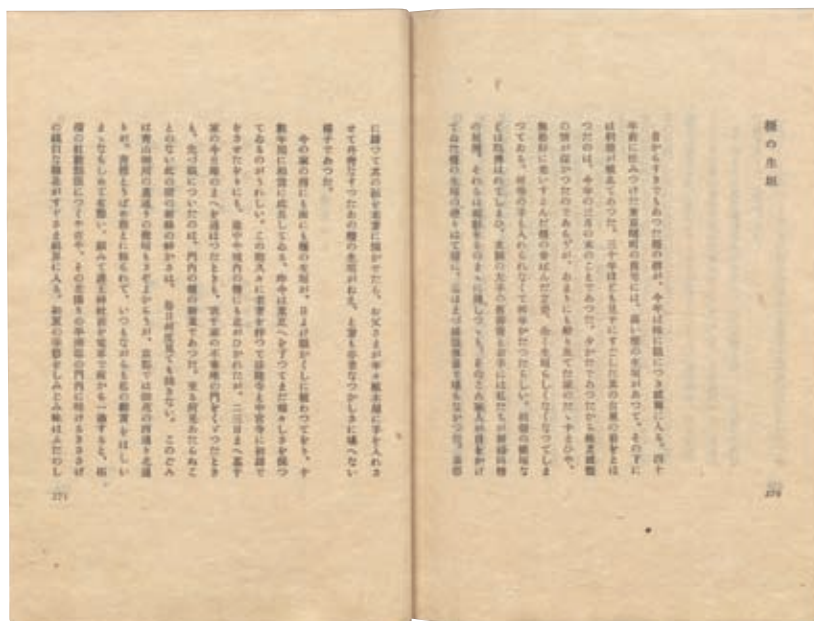


写真2 本文から「櫃の生垣」冒頭 天地を広めにとり、ゆったりとしている。

新村出（言語学者 1876-1967）の名前は、『広辞苑』（岩波書店 1955）の編者として知られているだろう。語源に興味をもっていたり、調べたことのある人には、同じ著書による『語源を探る』（講談社文芸文庫 1995）などが思い浮かぶかもしれない。その業績は『新村出全集』全15巻（筑摩書房 1971-1973）にある程度集められ、『言語研究篇』『南蛮紅毛篇』『史伝考証篇』『書誌典籍篇』『随筆篇』『短歌篇・書簡篇』に分けられている。なかでも随筆は、キリシタン文化、南蛮文化、ことば、書物をめぐる学術的な考証をおだやかなことば遣いで書き進めている。いくつもの随筆集が刊行されており、例えば『南蛮更紗』（改造社 1924）の装丁は恩地孝四郎（版画家 1891-1955）、『典籍散語』（書物展望社 1934）の題簽は狩野直喜（中国学者 1868-1947）がしたため、斎藤昌三（書物研究家 1887-1961）が装丁を手がけるなど、本のつくりくに意を用いているようにうかがえる。

『櫃』はそれらの随筆集の一冊で、書名になった櫃の木のことや、「南京の向日葵」「紙漉の歌」「私の郷里」といった植物、和紙、自伝的な回顧を記している。「櫃原」からはじまり「櫃の生垣」（写真2）で終えているのも構成の妙であろう。並製本と特製本があり、それぞれ初版再版が刊行されている。それらを年月の順に並べると次のようになる。

- 並製初版 昭和15年11月3日
- 特製初版 昭和15年11月30日
- 特製再版 昭和16年8月10日
- 並製再版 昭和17年10月18日

特製版というと豪華な装いを思い浮かべるかもしれないが、初版再版ともに和紙を用いておちついた風合いをかし出ししている。新村は昭和11（1936）年に和紙研究会を結成し、和紙についての書きものもある。

写真は特製再版である。その装丁については、著者自ら



写真3 奥付の検印



写真4 扉の前の薄紙に書かれた署名



写真5 口絵（右は前頁の薄紙をかぶせたもの） 叡傍山の上に薄紙がかぶさると、もやのようになる。



が「再跋」で触れている。以下、摘録してみたい。特製初版では吉野の国栖紙を用いていたのを、再版では各地の和紙に代えている。それらについては、英文学者で和紙研究の^{じゅうがくぶんしょう}寿岳文章（1900-1992）の尽力が大きいという。

実際に使われている和紙は、主に次のものである。

本文印刷の用紙：肥前紙。

表紙：陸奥紙。

見返し：岩手県陸中和賀郡十二箇の土沢の産。

箱・扉：富山県越中婦負郡八尾町の産。

扉の前の薄紙：山形県最上郡舟形村長沢の産。

口絵の前の薄紙：徳地紙（山口県佐波郡島地村の産）。

装丁をみると、扉（写真1）と背の「櫃」の字は、慶長勅版『日本書紀 神代巻』から集字したもの。奥付の検印（写真3）には、養父である新村猛雄のもっていた印で、明治期の篆刻家中井敬所^{けいしよ}（1841-1909）によって刻された印

「四海」と「一家」のうち、「四海」を押したという。特製初版では検印に「一家」の印を用いている。扉の前の薄紙には、右下に新村の自署がある（写真4）。

帝国図書館に収蔵された後、国立国会図書館に伝えられたものである。帝国図書館の請求記号をみると、通常の図書と異なり、別置きされていたようである。

本を読む際には、内容を読みとることが主であるけれども、それに加えて紙の手ざわりや文字の字配りなど、もとの刊行されたままのたたずまいに触れると、書き手とその周りの人々の本への思いがより一層伝わってくるようである。

（すずき ひろむね 利用者サービス部政治史料課）

櫃 新村出著

大阪 靖文社 昭和16（1941）年8月

287頁 21cm 特製本

<請求記号 新別か-5>

※「近代デジタルライブラリー」でデジタル画像を閲覧可能（館内のみ）。

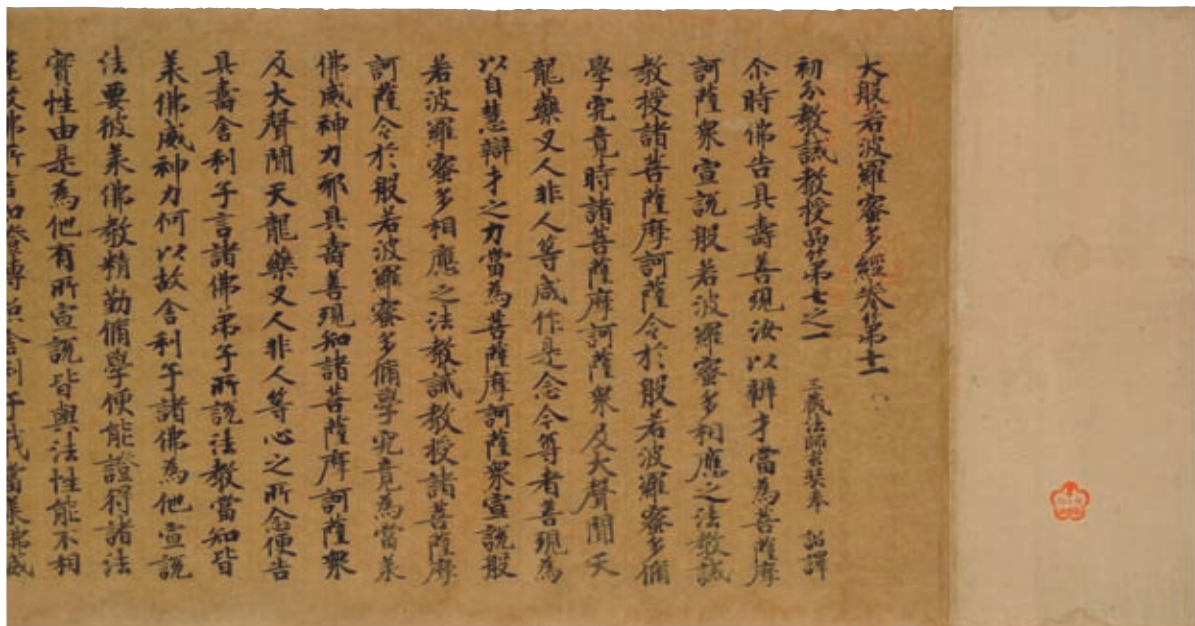
第45回貴重書等指定委員会報告 新たな貴重書のご紹介

国立国会図書館は、蔵書のうち、特に重要な資料を「貴重書」「準貴重書」と定めています。6月15日、古写経1点、古活字版1点、奈良絵本1点の計3点を貴重書に、絵図と絵本の2点を準貴重書に指定し、累計で貴重書は1,258点、準貴重書は789点となりました。新たに貴重書、準貴重書に指定した資料についてご紹介します。

- * 貴重書、準貴重書の指定は、「国立国会図書館貴重書指定基準」「国立国会図書館準貴重書等指定基準」の規定に基づき、館内の貴重書等指定委員会が行っています。
- * ここでご紹介する資料のうち「新改洛陽并洛外之圖」以外はインターネットを通じて閲覧することができます。
(国立国会図書館ホームページ>デジタル化資料(貴重書等) <http://dl.ndl.go.jp/#classic>)

太子傳記 第4冊から 聖徳太子35歳 推古天皇に勝鬘経を講ず(8~9ページに解説)





大般若波羅蜜多經 卷頭

貴重書



だいほんにゃはらみつたきょう
大般若波羅蜜多經
卷第十一

〔(唐) 釋玄奘譯〕 〔奈良時代後期〕 写
1軸

紙高27.2cm 卷頭および卷末書名「大般若波羅蜜多經卷第十一」 外題「大般若經卷第十一」 卷子装 白密陀撥型原軸 薄茶色表紙(後補) 本文料紙褐麻紙 22紙継 薄墨界 1紙24行毎行17字(稀に16字、18字)

<請求記号 WA2-33>

奈良時代には国家的に仏教が信仰され、10万巻を超える写経が行われたと考えられています。

「薬師寺経」と通称される「大般若波羅蜜多經」は、奈良時代後期の代表的な写経で、国立国会図

書館は全600巻のうち1巻(巻11)を所蔵しています。

「薬師寺経」とは、薬師寺(奈良県)に伝来したことから、その名で呼ばれます。卷頭内題の上2箇所に「薬師寺印」の朱円印、卷頭の紙背(裏側)に「薬師寺金堂」の黒印があり、原表紙を残す巻には、外題の上にも「薬師寺印」の朱印があります。軸首¹は白密陀²を施した、先端の太い撥型³です。能書家として知られる朝野魚養³の筆という説があり、「魚養経⁴」とも呼ばれますが、筆跡は10

1 軸の両端に付いている裝飾部品。

2 彩色表面上に密陀油を塗布したり、密陀油で顔料を練る、密陀絵の手法による白色の塗り。

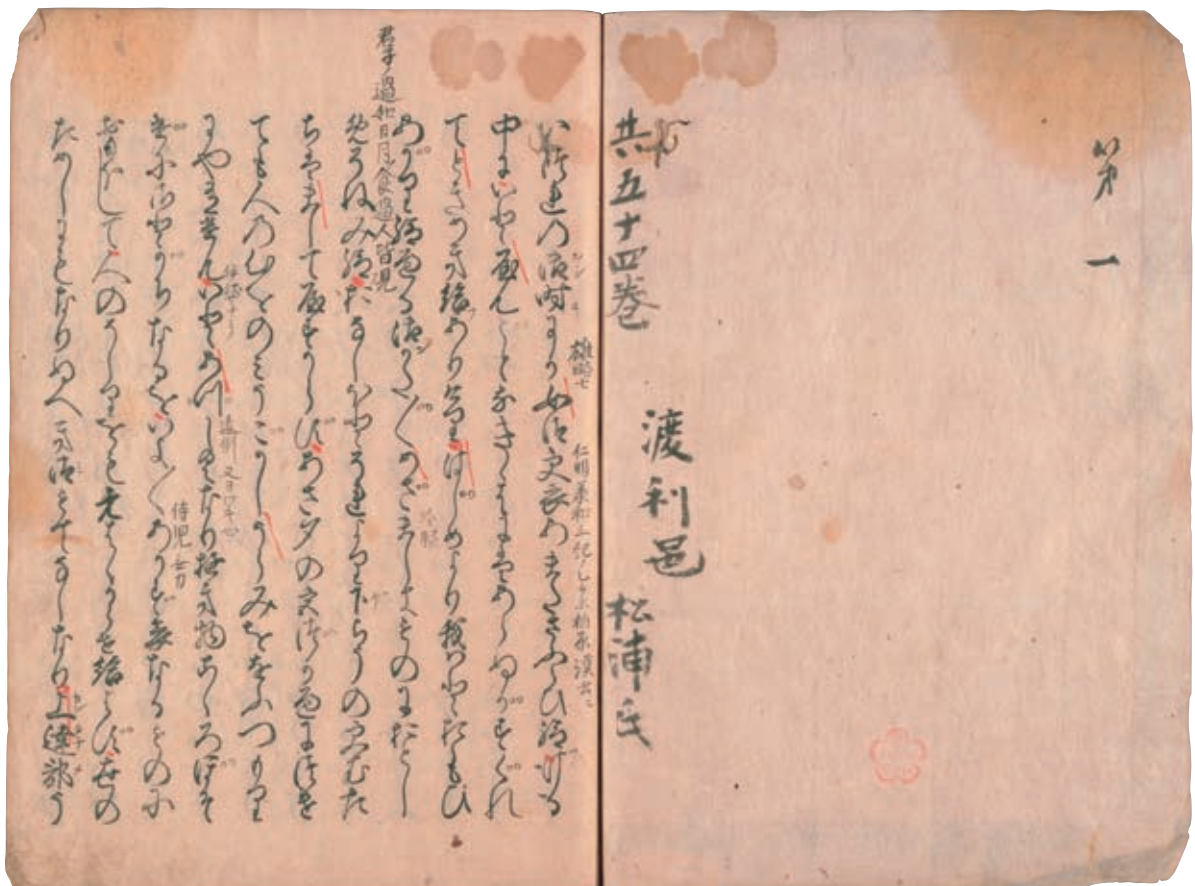
3 奈良時代末の人。医家。朝野は「ともの」、魚養は「うおがい」「なかい」「いおかい」「ぎょよう」とも。

4 「うおかいきょう」「なかいきょう」とも呼ばれる。

数名に分かれており、魚養の真蹟が含まれているかは不詳です。いずれの巻にも奥書がなく、書写年は不明ですが、藤田美術館（大阪府）などが所蔵する中に、巻末の軸付紙部分に校生（写経所の校正の担当者）の名が記されているものがあり、その名前から宝亀年間（770-781）の初め頃に写経所で作られたものと考えられます。

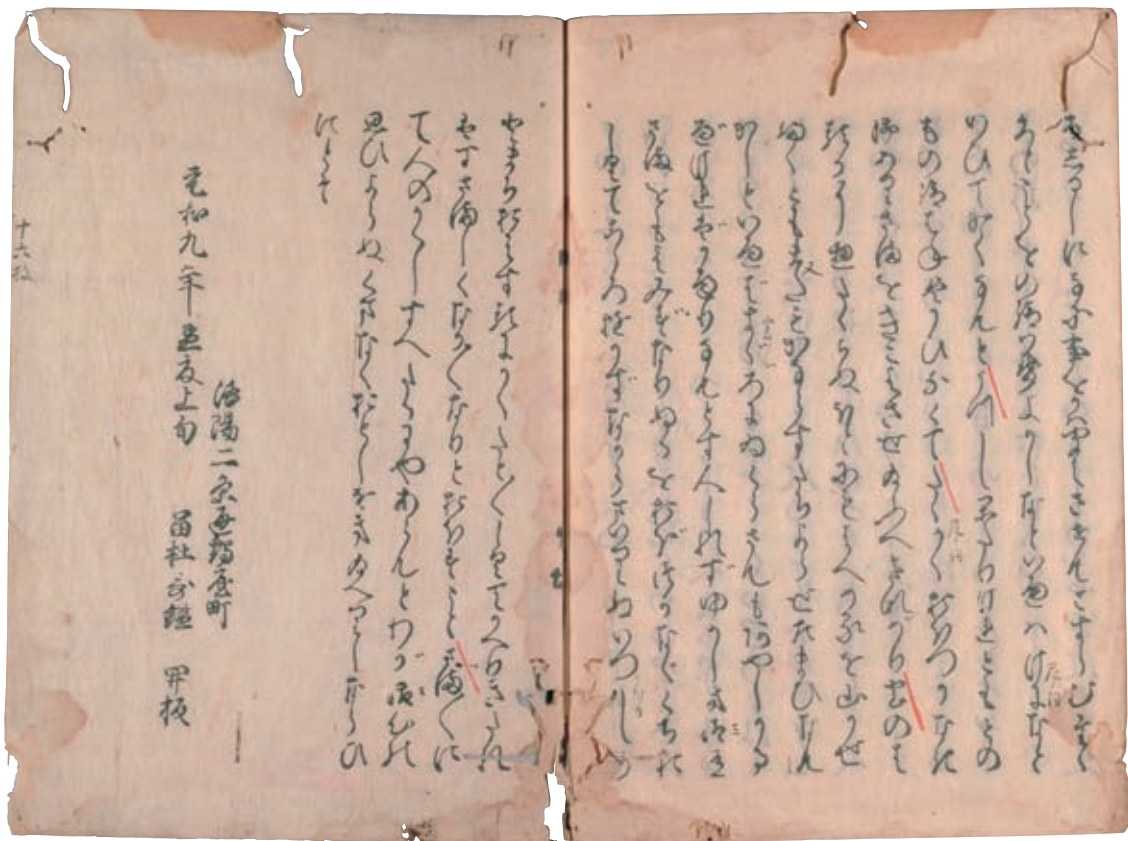
「薬師寺経」は全600巻のうち480巻余りの伝存が確認されており、藤田美術館の所蔵する387巻は国宝に、薬師寺の所蔵する33巻は重要文化財

[源氏物語] 第1冊「きりつほ」巻頭



に指定されています。このほかに奈良時代の『大般若経』がまとまって残されている例は少なく、貴重な資料とされています。

国立国会図書館の所蔵する巻11は、表紙は室町時代後期に補われたものとみられますが、元の軸首を残し、欠丁もなくよい状態です。「薬師寺経」の遺品の一つとして、大切に伝えていきます。



〔源氏物語〕 刊記（第54冊「夢のうき橋」）



〔源氏物語〕

〔紫式部〕〔著〕
 元和9（1623）年刊 古大
 活字版 54巻54冊
 大きさ27.2×19.9cm

刊記「元和九年孟夏上旬
 洛陽二条通鶴屋町富
 杜哥鑑 開板」袋綴 四
 つ目綴じ 褐色表紙 表
 紙中央に薄茶色書題簽「巻
 名」（第1、12、51、54
 冊は剥落）無辺無界 半
 葉11行 平仮名漢字交じり 毎行約22字 字高
 21.7cm

第51冊「うきふね」の第33丁は補写 第34丁と第35丁
 の間に1丁切り取りあり 全冊にわたり朱筆、墨筆の書入
 れあり 木箱入り 安田善次郎旧蔵

<請求記号 WA7-275> (写真は第3冊「うつせみ」表紙)

『源氏物語』は、平安時代中期に成立して以
 来、転写を繰り返すことによって伝わってしまし
 た。初めて印刷に付されたといわれる、慶長前期
 （1596-1605）に木製活字を用いて印刷されたもの
 も国立国会図書館で所蔵しています<請求記号
 WA7-263>。文禄年間（1592-1596）から慶安年
 間（1648-1652）までの約50年間に活字を用いて
 刊行されたものを「古活字版（古活字本）」とい
 います。慶長年間（1596-1615）には、美しい装丁
 で知られる「嵯峨本」の一つと伝えられる『源氏
 物語』が、やはり木製活字を用いて刷られました。

本書はこれらに次いで、元和9（1623）年に刊行されました。本文は、藤原定家（1162-1241）が証本として定めた青表紙本系です。刊記には「元和九年孟夏上旬／洛陽二条通鶴屋町／富杜哥鑑 開板」とあります。本屋としては不思議な名前ですが、京都二条通鶴屋町（現在の二条通晴明町）にあった「富杜哥鑑」が、元和9（1623）年に開版（刊行）しました。古活字版の国文学書では、刊記のあるものは珍しく、大変貴重な資料です。古活字版『源氏物語』は、寛永（1624-1644）に入ってから刊行され、以後は木版印刷（整版印刷）での刊行となりました。

元和9年版『源氏物語』は、端本を除いて、国内ではかに3機関が所蔵しています。東洋文庫（東京都）、阪本龍門文庫⁵（奈良県）と、天理大学附属天理図書館（奈良県 2組を所蔵）です。国立国会図書館の所蔵本は、第51冊「うきふね」の第33丁が補写になっており、34丁と35丁の間の1丁が切り取られています。天理図書館の所蔵本⁶は、第51冊に乱丁があり、1～32、34、33、35～67丁の順に綴じられています。国立国会図書館の所蔵本も元々このように綴じられていたと思われる。

表紙は褐色で、元の題簽が貼付されています。阪本龍門文庫の所蔵本も褐色表紙とのことです。表紙の左端には「押し八双」と呼ばれる空押しの筋があります。これは巻物の表紙を保護するため

に表紙の端に付けられた押え竹の名残で、慶長から寛永期（1596-1644）に広く行われたものです。

各冊の表紙の裏（見返し）には、「渡利邑／松浦氏」と墨書があります。渡利村は現在の福島市と思われませんが、松浦氏については不明です。その後、蔵書家で有名な旧安田財閥の二代目安田善次郎（1879-1936）が所蔵していました。



太子傳記

〔江戸時代前期〕写 8冊
大きさ 29.7×22.2cm

内題なし 題簽（表紙左肩 鳥の子地に金泥波模様）に「太子傳記 一（～八）」袋綴 五つ目綴じ 灰青地花唐草織文裂表紙 見返し金布目紙 本文料紙斐紙 草花等の金泥下絵を施した料紙と無地の料紙を混用 無辺無界 每半葉10行字数不等 漢字平仮名交じり 漢字の多くに振り仮名を付す

構成

第1冊：太子誕生～13歳、第2冊：太子14～21歳、第3冊：太子22～29歳、第4冊：太子30～35歳、第5冊：太子36～41歳、第6冊：太子42～47歳、第7冊：太子48～50歳および没後、第8冊：太子没後、跋文、賛

<請求記号 WA32-21>（写真は第1冊表紙）

室町時代後期から江戸時代前期にかけて、物語などに色鮮やかな挿絵を添えた写本が数多く作られました。これらの写本は「奈良絵本」と呼ばれています。

『太子傳記』は、聖徳太子の生涯を挿絵をまじえて描いた奈良絵本です。挿絵の天地の霞に小さく切った金箔を散らし、極彩色で緻密に描かれた様式から、江戸時代前期（17世紀後半）に作ら



太子傳記 第3冊から
太子27歳、甲斐国より献上された
黒駒に乗り空を飛ぶ

れたものと推測されます。

本文は、聖徳太子伝記の基本とされる、漢文体の『聖徳太子伝暦』⁷を読み下して漢字交じりの平仮名文としたものです。注や引用書、跋文、賛まで、忠実に読み下しています。写本として伝わった『聖徳太子伝暦』をもとにしたとみられますが、どの写本を底本としたかは今後の調査が必要です⁸。

挿絵は全47図（うち見開き絵が9図）。挿絵と本文は別の料紙に描かれて貼り継がれています。挿絵の直前の本文は、散らし書き等で余白が調整されており、挿絵を入れる位置があらかじめ決められて、絵師と詞書の筆者で計画的に分担してい

たことがうかがえます。第1～3冊の挿絵の料紙の裏に「一」～「十七」の墨書がみられるのは、絵の順番や挿入位置を指示したものと考えられます。

本書には、製作者や製作時期を示す奥書などの手がかりがありませんが、表紙などの造本形態、挿絵の描法等が、国立国会図書館が所蔵する『甲陽軍鑑』〈請求記号 WA32-1〉と酷似しています。同一の製作者グループによって作られたと考えるとよいでしょう。奈良絵本には通常、製作者名が記されることがなく、どのような人々によって作られたのか、はっきりわかっていません。これからの研究が期待されます。

5 4冊を寛永古活字版で補う。

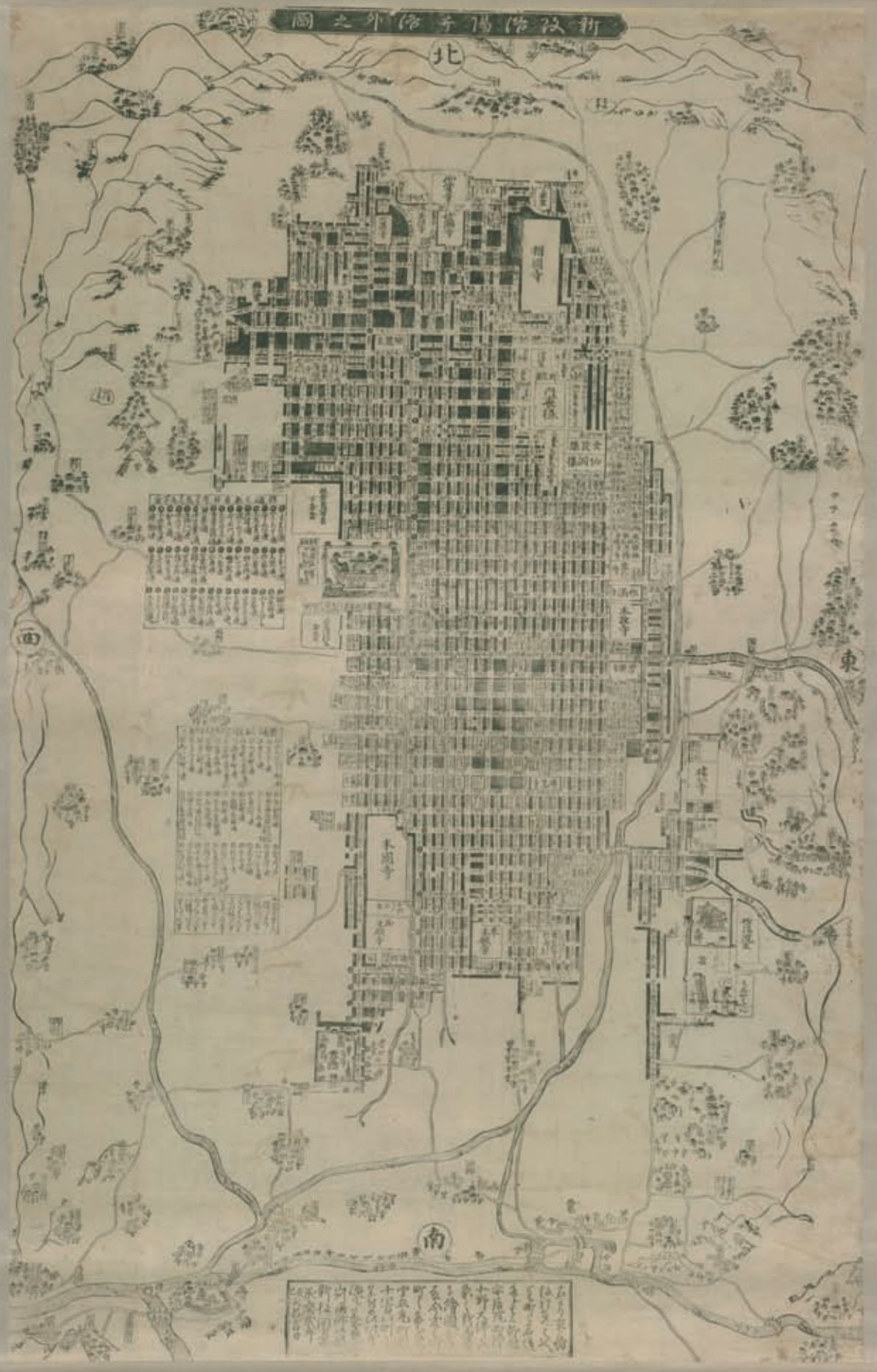
6 天理図書館請求記号 913.36-イ403 なお、ほかの1組は、第2冊を整本版で補っている（請求記号 913.36-イ19）。

7 平安時代に、それまでの聖徳太子伝を集大成したもの。

8 『聖徳太子伝暦』は、寛永5（1628）年に版本として刊行されているが、『太子傳記』の本文は、この版本に付された訓点に基づく読み下しとは異なる。

新設陽子外之圖

北



南

此圖係新設陽子外之圖
 凡欲知其詳者請向
 本局索取可也
 明治二十九年
 十月九日
 本局印

準貴重書

しんかいらくようならびにらくがいのみず
新改洛陽并洛外之圖

承応2 (1653) 年刊 1軸 本紙の大きさ
116.3×73.2cm

書名は題額による 刊記「古より京ノ圖／板行多シといへ／ども町之名違／多シ其上柳原／安居院西陣／北野大佛六／条之新屋敷／は繪圖ニ無之／故今度其町／町之名を悉ク／聞立凡町數／千四百八町之／名付如此此外／洛外ノ名所舊跡／山川通路迄改／新板ニ開者也／承應貳年／癸巳大呂吉日」掛物に改装

<請求記号 WB39-7>

日本における地図の出版は、江戸時代初めに京都で始まったとされます。また、京都図は都市図の中で最も早く出版されました。最初は中心の市街部のみを描いた地図でしたが、次第に記載される範囲が郊外にも広がっていきます。

この「新改洛陽并洛外之圖」は、承応2 (1653) 年に刊行された京都図です。「洛陽」は京都の中心の市街部、「洛外」は東山など四方に広がる郊外地域を指します。本図で注目されるのは、タイトルに「洛外」と初めて明記した点、金閣寺や清

水寺など洛外の寺社名勝を図中に多くとりこんだ点です。本図以前にも洛外の名所が描かれた京都図はありますが、飾りのようにイラストが周辺に配置されているだけでした。本図では、北は鞍馬・貴船から南は伏見・淀まで、名所へ向かう街道や周辺の山並み、河川も記されており、観光案内図の要素が入ってきたことがうかがえます。

また、洛外から洛中の市街部には、碁盤の目にも例えられる縦横の通りに「い」「ろ」「は」等の記号が付いています。通りの名前をそのまま図中に書きこむと細かくなりすぎてしまうため、余白に一覧表を配置して記号で対照できるようにしたもので、この工夫も本図が最初とされます。

このような特色から、「新改洛陽并洛外之圖」は初期の京都図の中でも画期的なものといえます。国立国会図書館が所蔵する京都図の中では、現在のところ最も早い時期に刊行されたものです。蔵書印などはなく旧蔵者は不明ですが、調査の範囲ではほかに所蔵する機関はなく、たいへん珍しいものです。

貴重書とそれに準ずる資料は、地下書庫の一面を気密扉で仕切って設置された貴重書庫に収められています。急激な温度湿度の変化を避けるため、書庫の内装は、天井、壁、床をヒノキ合板で仕上げてあり、ナラ材製の引戸付書棚を使用しています。空調は、温度が22℃±2℃、湿度が55%±5%にそれぞれ調節され、定期的に状態を確認しています。埃や害虫の侵入を防ぐため、人の出入りを制限し、入庫の際には靴を履き替えています。





うちわえ
團扇繪づくし

菱川師宣 [著]
天和4 (1684) 年刊 1冊
大きさ 26.1 × 18.5cm

書名は序による 表紙中央
書題籤に「(角書:新板)
團扇畫様集 (だんせんぐわ
やうしう) 全」版心「團
扇繪 初 (廿終)」「扇繪
一 (~十九)」刊記「大和
繪師菱川師宣筆/天和二二
年子正月吉日/大傳馬三町

目鱗形屋開板」袋綴 四つ目綴じ 筆彩 四周単辺 匡郭
内の大きさ 21.9 × 16.3cm 印記「福田文庫」「小汀文庫」
「月明荘」「弘文荘」「拝土藏書」

<請求記号 WB36-4>

写真/團扇繪づくし 筆彩がある箇所 (左) とない箇所 (右)

浮世絵の祖とも称される菱川師宣(?-1694)は、
版本の挿絵に署名した最初の絵師でもあり、師宣
の絵本は近世の絵本の歴史上で重要な位置を占め
ます。この『團扇繪づくし』も、師宣円熟期の傑
作の一つとされる絵本です。見開きの右側に団扇、
左側に扇をかたどり、その中に武者絵、美人図、
風俗図、歌仙図などさまざまな画題による絵を描
くという構成です。絵の上にはそれぞれの画題
に合わせた文章や和歌が添えられています。

『團扇繪づくし』は天和2(1682)年と天和4(1684)
年の2回刊行されたことが知られていますが、国



立国会図書館は、後者の天和4年版を所蔵しています。天和4年版は、国内ではほかに天理大学附属天理図書館、東洋文庫、西尾市立岩瀬文庫（愛知県）が所蔵しています。

指定本の表紙の中央には「新板^{だんせんぐわやうしゅう}團扇畫様集全」と題した題簽が貼り付けられています。これは元々の題簽を真似て後から書かれたものようです。見開きで合計20図の絵の一部には、後代の筆彩が加えられています。また、蔵書印からは、アメリカの収集家ドナルド・F・ハイド（?-1966）、評論家の小汀^{おばまとしえ}利得（1889-1972）などが所

蔵していたことがわかります。

国立国会図書館は、このほかに『大和絵づくし』〈請求記号 WA32-15〉、『余景作り庭の図』〈請求記号 WA32-16〉などの師宣の絵本を所蔵していますが、この『團扇繪づくし』からは、跋文に「此團扇繪本つくしハ世間に無類繪にして」と掲げるとおり、新しい趣向の絵本を次々に生み出した師宣の画業の一端がうかがえます。

（貴重書等指定委員会）

電子図書館で貴重書を



国立国会図書館は
古典籍資料などの
蔵書のデジタル化を
進めています

<http://dl.ndl.go.jp/#classic>

左上から右回りに 『守貞謄稿』（喜田川守貞自筆 天保8年から書き始められた近世の風俗の記録）『ゆや』（謡曲「熊野」を題材にした絵入り写本 慶長年間頃）『南総里見八犬伝』（左は作者曲亭馬琴の自筆稿本、右は馬琴旧蔵の初刷り本）『本草綱目草稿』（江戸期の本草学者小野蘭山自筆 安永末年頃までの作）

著作権処理を行った本文画像は、インターネット上でも提供しています。

データベースの維持管理 国会会議録・日本法令索引篇

国立国会図書館は、立法府に置かれた図書館として、議会の議事録を検索・閲覧できる「国会会議録検索システム」「帝国議会会議録検索システム」、日本の法令情報を調べられる「日本法令索引」「日本法令索引〔明治前期編〕」を維持管理しています。今回は、これら4つのデータベースを担当する議会官庁資料課立法情報系の業務をご紹介します。

立法情報係の一日は、独立行政法人国立印刷局が提供している「インターネット版官報」をチェックすることから始まります。法律・条約の新たな公布、国会への新規法案・条約案提出等があれば、「日本法令索引」の更新を行います。法令の正式名称は、長くて覚えにくいいため、一般的には、略称が使用されます。そんな法令の略称でも検索できるよう、新聞・専門誌等を参照し、入力しています。

次に、日々、衆議院・参議院から送付される冊子とテキストデータの「国会会議録」のデータベース化作業を行います。冊子を頁毎にス



薄い冊子がまぎれないよう引出しを分けて整理する

キャンし、テキストデータとともにデータベースに取り込みます。

「日本法令索引」では、法律の改廃履歴のほか、「国会会議録検索システム」の関連する審議もリンクによって参照できるようになっています。すべての国会会議録に目を通して、法案の審議段階（趣旨説明・質疑・討論・採決など）をチェックします。地道な作業ですが、話題の法案の審議経過を日々見ていきますので、大変興味深くもあります。

これらのデータベースが利用者の方の要望に応えられるよう、今後も努力していきますので、ご活用いただくと幸いです。

（議会官庁資料課立法情報係 KUU）

日本法令索引

<http://hourei.ndl.go.jp/>

日本法令索引
〔明治前期編〕

<http://dajokan.ndl.go.jp/>

国会会議録
検索システム

<http://kokkai.ndl.go.jp/>

帝国議会会議録
検索システム

<http://teikokugikai-i.ndl.go.jp/>

誰もがアクセスできるアーカイブを めざして ブリュースター・ケール氏の講演から



Kahle, Brewster

インターネット・アーカイブ (Internet Archive) 創設者

マサチューセッツ工科大学で計算機科学工学学士号を取得。インターネットの情報発信・検索システム WAIS を開発し、1989年にウェイズ社 (WAIS)、1996年にアレクサ・インターネット社 (Alexa Internet) を設立。1996年にインターネット・アーカイブ (Internet Archive) を創設、その後ケール・オースティン財団を妻とともに設立し、インターネット・アーカイブ等のNPOをサポートしている。デジタル化した書籍のアーカイブ構築を目的としたコンソーシアム Open Content Alliance の創設者でもある。現在、米国芸術科学アカデミーフェロー、全米技術アカデミー会員。米国議会図書館「米国電子情報基盤・保存プログラム」諮問委員会等、多くの電子情報関連団体のメンバーを務めている。

私は、あらゆる情報をすべての人が利用できるようにしたいという思いから、非営利団体であるインターネット・アーカイブを創設しました。どうすれば、書籍、音楽、動画等、人類の作ったあらゆる文化資源に誰もがアクセスできる「ユニバーサルな図書館」を実現できるのか、様々な種類の膨大な情報をどのように保存するのか、権利の問題はどうするのか。図書館、出版者、著者、読者などすべての関係者が不利益を被ることなく、デジタルの世界の恩恵を受けられるようにするための、インターネット・アーカイブの取組みをご紹介します。

図書館をデジタル化するコスト

これまで、膨大な蔵書を蓄積するすばらしい図書館が、世界各地に作られてきました。世界最大の図書館は、2,600万冊の蔵書を有する米国議会図書館です。本1冊をデジタル化したデータ

容量をおよそ1メガバイト (MB) として計算すると、2,600万冊の蔵書をデジタル化したときのデータ容量は2,600万MB、すなわち26テラバイト (TB) です。26TBのハードディスクドライブのコストはわずか3千ドルで、これだけの金額で、議会図書館の蔵書を丸ごとデジタル化したものが保存できるわけです。インターネット・アーカイブの予算は年間1,000～1,500万ドル程度で、スタッフは200名、他機関や財団との協力によりできるだけコストをかけずに運営しています。高レベルの技術力をもった人材を登用し、ハード面の費用を全体の20%と安価に抑えることで、コンピュータを増やしています。

デジタル化から生まれるサービス

書籍のデジタル化は、世界各地ですでに始まっています。書籍をデジタル化することによって、Kindle (キンドル) やiPadといった機器を使っ

た読書が可能となります。また、視覚障害や読書障害をもつ人々の読書を手助けできる可能性もあります。

インターネット・アーカイブでは、2001年頃から書籍のデジタル化を開始しました。現在、6か国28か所でスキニングセンターを運営し、すでに5億ページ以上のデジタル化を行いました¹。デジタル化にあたっては、自動スキャナで画像データを作成した後、OCR²でテキスト・データも作成し、全文検索にも対応できるようにしています。標準的な形式のメタデータ³も付与します。1冊の本をスキャンする費用は約30ドル、人件費、機器、品質担保等をすべて含めて、1ページあたりの平均単価は10セントです。

インターネット・アーカイブは、デジタル化したものを含め、あらゆる書籍を探し当てるためのデータベースを構築する「オープンライブラリー」⁴というプロジェクトを進めています。これは、ソフトウェアや書誌データを含めて、ウィキペディア⁵のようにすべてオープンで維持・作成されている、いわば「みんなで作る図書館」です。このプロジェクトでは、著作権保護期間内の電子書籍も提供しています。普通の図書館が書籍を購入して貸し出すのと同じように、利用者に電子書籍を貸し出すのです。蔵書の構築には、ボストン公共図書館をはじめ、米国内の150の図書館が参加しています。本を借

りるには、目録データベースを検索します。誰かが借りていれば「貸出中」と表示が出ますが、さらに他の図書館のデータベースを探することもできます。データ形式は、BookReader、PDF、EPUB⁶です。利用者は1回に5冊まで借りることができ、貸出期間は2週間で、期限を過ぎるとデータは自動的に消えます。著作権の問題については、関連機関と十分な調整を行い、信頼を得られるよう努めています。「すべての人に提供する」という理想には若干遠いかもかもしれませんが、一つの前進だと思っています。

一方で、やはり紙の本が読みたいという人のためには、インターネット・アーカイブの移動図書館プロジェクト⁷があります。小さなバンにパラボナアンテナとプリンタと製本機を積んだ移動図書館で、100万冊の蔵書のデータから好きなものを選んで本を作ることができます。1冊のコストは1ドルで、どんな地域に住んでいる子どもたちにも、公平な読書の機会を与えることを目的としています。

1 数値は2011年10月10日時点。

2 文字を光学的に読み取る装置。

3 書誌情報、管理情報など、その情報に関する情報。

4 Open Library (<http://openlibrary.org/>)

5 ウィキメディア財団が運営し、誰もが自由に編集に参加できるインターネット上の百科事典。

6 電子書籍のフォーマットの一つ。米国の電子書籍の標準化団体であるInternational Digital Publishing Forum (IDPF、国際電子出版フォーラム)が策定し、普及活動を行っている。

7 Internet Archive Bookmobile (<http://www.archive.org/texts/bookmobile.php>)



たのです。こういった情報を提供することは、図書館として重要な任務だと思います。今後も、より多くの番組を収集・保存したいと考えています。例えば、米国の次の（大統領）選挙の候補者について理解を深められるよう、関連するテレビ番組を収集・保存し、市民のよりよい意思決定

音声、動画の保存

インターネット・アーカイブはアナログレコードなど音源のデジタル化も進めており、すでに60万点をデジタル化しました。

映画は、現在世界中に約15万タイトルが存在するようですが、インターネット・アーカイブがデジタル化したのは、著作権の関係でそのうち約1千タイトルです。次の世代に伝えていくべきものとして、教育映画や政府の宣伝・ニュース映画、古い広告といったものに着目しています。

また、テレビ番組も保存の対象としています。資金上の問題もありすべてはカバーできていませんが、例えば、2001年9月11日以降の1週間に放映された20チャンネルのテレビ番組をインターネット上で視聴できるようにしています（2001年10月11日に提供開始）⁸。「なぜ9・11が起きたか」を考えるための材料を提供したかっ

のために有益なツールを提供したいと考えています。

ウェブサイトの保存

インターネット・アーカイブは、1996年からウェブサイトの収集・保存を開始しており、このコレクションからは、時代とともにどのようにウェブが進化しているのかがわかります。現在は、世界各地でウェブサイトの収集・保存が進められており、非常に幅広い範囲で収集・保存することが可能となりました。例えば2011年の東日本大震災に関連するウェブサイトについても、国立国会図書館をはじめとする諸機関で、貴重なコレクションが作られています。

しかし、ウェブサイトの収集範囲はまだ十分とはいえず、やるべきことはたくさんあります。ウェブはますますダイナミックになっていて、保存が

難しいものもありますが、デジタル文化遺産を保存することは我々の義務であり、チャンスでもあると思っています。

人々に無料で

これだけ多くの情報をどのように保存すれば、すべての人が利用できるようになるのでしょうか。人類初の図書館といわれる古代エジプトのアレクサンドリア図書館は、世界各地の文献を集めていましたが、ご存じのとおり焼き払われてしまい、もはや残っていません。この教訓から、我々は文化遺産の保存について何を学ぶべきでしょうか。二つの戦略が考えられます。一つは、ロゼッタ・ストーンのように、砂漠に埋めて隠してしまうこと。もう一つは、コピー（複製物）を作って広く流通させ、世界各地で利用できるようにすることです。インターネット・アーカイブは、後者の方法をとっています。例えば、コレクションの一部をエジプトのアレクサンドリア図書館などに寄贈し、様々な場所にコピーを保管しています。また、書籍やアナログレコードなどを保存する物理的なアーカイブも構築しようとしています。

保存している情報のマイグレーション⁹については、動画は苦勞していますが、音声やウェブサイトはうまくいっています。いちばん良い方法は、世の中でよく使われているフォーマット

を使用することだと思います。情報を保存するには、その情報に対する需要を高めることが重要です。

今後、5年から10年以内に、「あらゆる知識へのユニバーサルアクセス」というインターネット・アーカイブの理想が実現できるのではないかと考えています。これは、人類の偉大な成果の一つになるでしょう。国立国会図書館を含め、様々な人や機関が目標にむかって進んでいますが、まだまだ先は長く、やらなければならないことはたくさんあります。米国の偉大な図書館の一つであるピッツバーグのカーネギー図書館には、正面玄関に「人々に無料で (Free to the people)」という言葉が刻まれています。我々の一人一人がそれぞれの役割を見つけて、持てる知識を提供して、人類の「知」を次の世代に受け継いでいこうではありませんか。

(編集 総務部支部図書館・協力課)

本稿は、平成23年5月24日に行われた講演会「あらゆる知識へのユニバーサルアクセス—誰もが自由に情報アクセスできることを目指して」と、ケール氏、時実象一氏（愛知大学教授）、長尾真（国立国会図書館長）による鼎談をまとめたものです。

⁸ Understanding 9/11 : a television news archive (<http://www.archive.org/details/911>)

⁹ 電子情報を長期間利用するために、媒体移行や形式変換を行うこと。

企画展示

「ビジュアル雑誌の明治・大正・昭和」から

近代の印刷技術 1 金属凸版、木口木版



現在、カラーの美しい印刷物が大量に印刷されています。個人がDTPソフトを使って印刷業者のような紙面を作ることも可能になりました。しかし、このような技術が確立したのはごく最近のことです。明治期に西洋の印刷技術が輸入され、それまで木版が中心だった日本の印刷の世界は、大きく様変わりしました。その後昭和に至るまで試行錯誤が重ねられ、様々な印刷技術が華開きます。出版物の中でも雑誌には、実験的な場として新しい技術がどんどん使われました。

国立国会図書館は、平成24年2月から3月にかけて展示会「ビジュアル雑誌の明治・大正・昭和」の開催を予定しています。今号から3回にわたり、雑誌のビジュアル表現を支えた様々な印刷技術を展示資料からピックアップしてご紹介します。

図版／『印刷雑誌』 第1巻第1号 明治24（1891）年2月 <請求記号 雑35-250> 表紙から生巧館の木口木版（22ページ参照）



金属凸版（手描き腐食式）

仕組み

鉛（もしくは亜鉛）に防腐剤で描画し、版面を腐食させて凸版にする手法。またはホルマリンを塗った鉛に描画して化学的に凸版化する手法もある。様々な印刷技術が模索された明治初期、試験的に行われた技術のひとつである。

由来

19世紀後半にイギリスで開発された技術。日本には、明治初期にオーストリア出身の石版製版師オットマン・スモリック（Smoric, Ottoman 生没

年不明）によって伝えられた。スモリックを日本に招いたのは、官札の印刷に携わっていた印刷技師梅村翠山が創設した彫刻会社で、次頁の『^{まるまる}团团^{ちんぶん}珍聞』の印刷も同社による。

特徴

鉛をそのまま版に加工する印刷技法であり、使用例は少ない。従来の木版画では表現できない細かい図柄が特徴であるが、その分、全体がくすんだ印象になる。

連載 目次	2	石版、多色石版、コロタイプ、網目写真版	609号 (2011.12)
	3	三色版・原色版、グラビア印刷、オフセット	610号 (2012. 1)

『团团珍聞』は、明治期のジャーナリスト野村文夫 (1836-1891) によって、明治10 (1877) 年3月24日に創刊された時局風刺雑誌。「新聞」を

もじって「珍聞」と名付けられた。現在の週刊誌の祖というべき存在である。



『团团珍聞』 团团社 7号表紙
 明治10 (1877) 年5月5日
 <請求記号 雑13-2>
 *ご利用は複製版となります。
 <請求記号 Z13-2488>

表紙下の欄外に「彫刻会社鉛製」の記載がある。表紙左下の赤枠部分を拡大すると下のようになる。





木口木版

仕組み

木口木版こぐちもくはんは、従来の木版（板目木版）が木の幹に平行に縦切りにした面を用いるのとは異なり、ツゲや椿など目の詰んだ堅い木を輪切りにした面を版とし、ニードルやビュランのような鋭い道具で彫って制作される。西洋木版とも呼ばれる。凸版。

由来

18世紀末にイギリス人の木版画家トーマス・ビューイック（Bewick, Thomas 1753-1828）が、銅版画の手法を木版画に応用して開発した。日本では、フランスに留学して木口木版を学び、専門の印刷会社・生巧館こうだを創設した合田清（1862-1938）が有名である。写真が報道に使われるまでは、詳

細な図を複製できる技術として重宝され、明治20年代から30年代前半にかけて一世を風靡した。しかし、明治後期には、石版や網目写真版（いずれも次号参照）にその地位を奪われる。現在はもっぱら美術作品に用いられている。



合田清 肖像
『印刷雑誌』第1巻第2号（明治24（1891）年3月）
p.11 合田自身による木口木版。

特徴

版面が硬いため、細かい線を表現でき、彫りの深さによる濃淡の表現も可能である。中には写真と見まがう作品も存在する。合田は写真を板に貼って彫ったという。

国立国会図書館企画展示

ビジュアル雑誌の 明治・大正・昭和



東京会場 平成24年 2月1日(水)～3月2日(金)
東京本館 新館展示室 10:00～19:00 (土曜 18:00)

関西会場 平成24年 3月9日(金)～3月28日(水)
関西館 大会議室 10:00～18:00

日・祝・休館日除く
入場無料
期間中フロアレクチャー
開催予定

『日清戦争実記』は、爆発的に売れ、博文館発展の基礎を築いた雑誌である。創刊した明治27(1894)年の刊行部数は約129万部。本文からは、日清戦争の戦況を、詳細に国民に知らせようとす

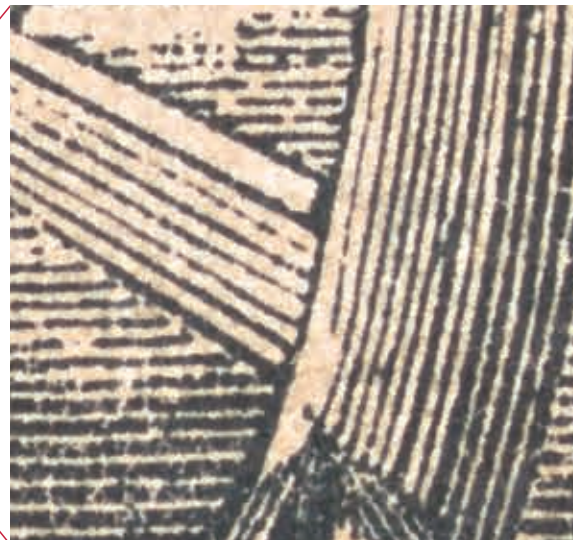
る編集者の意気込みが感じられる。旬刊。網目写真版(次号参照)をいち早く採用した雑誌といわれる。

(展示委員会企画展示小委員会)



日清戦争実記 1編 (13版) 博文館
 明治27 (1894) 年10月8日
 <請求記号 雑53-3>
 *館内限定でデジタル画像を閲覧可能。
 *写真は布川文庫(東京本館人文総合
 情報室所蔵)に収録されているもの。
 <請求記号 VG1-63>
 *1編の初版は明治27 (1894) 年8
 月刊。

一見ペン画のようなものであるが、れっきとした木版。右下に「生巧館刀」の記載がある。表紙右下の赤枠部分を拡大すると下のようになる。



言葉のエッセイ

第10回 格変化

格変化についてこのエッセイで取り上げるか少し悩んだ。詳しく説明すると文法の教科書みたいになって、読者の読む気を失わせる可能性があるからである。したがって、あまり深みにはまらない程度にご紹介することにしたい。

格変化とは、日本語の「～の」「～を」のように、所有関係や目的語としての関係など、動詞や他の名詞などとの関係を表すために、名詞や形容詞の語尾などを変化させることをいう。

ドイツ語では、名詞、代名詞、形容詞等には4つの格があり、1格、2格、3格、4格と呼んでいる。日本語の格助詞に当てはめると、

1格は「～は」、2格は「～の」、
3格は「～に」、4格は「～を」
に大体該当する。



スラヴ系諸語はさらに格の数が多く、ロシア語では6格ある。格の名称と、大体対応する日本語の格助詞をそれぞれ括弧書きすると、主格（「～は」）、生格（「～の」）、与格（「～に」）、対格（「～を」）、造格（「～で」）、前置格（いくつかの前置詞の後に来る格）となる。ポーランド語には7格あり、これに呼格（呼びかけるときに使う格）が加わる。なお、ロシア語でも一部の語に呼格が残っていることもある。

グルジア語は、主格がラテン文字の「i」に当たる「o」で終わる語が多い。大体の言語は、外来語の主格は無変化のまま取り入れるが、グルジア語は自分たちの格語尾体系に合わせるため、わざわざ外来語の主格に「o」をつけることがある。「სტუდენტი (ストゥデンティ：学生)」、「პრეზიდენტი (プレズィデンティ：大

統領)」などである。また、グルジア語の格変化で特徴的なのは、能格（大雑把にいうと、他動詞の動作主体を表すために使う格）という特殊な格を持っていることである。一定のグループの動詞は、過去形になると主語が能格になり、目的語が主格になるという、実に不思議な規則がある。

スラヴ系諸語の格変化は、男性名詞、女性名詞、中性名詞で異なる。さらにそれぞれ、例えば男性名詞の中でも名詞により複数の変化パターンがある。それに加えて、単数、複数で別

の格変化をするという非常に複雑なシステムを抱えている。ここで挫折するか、面白いと思うかが、一般の人と語学マニアを分ける岐路となる。なお、スラヴ系諸語であっても、ブルガリア語のように基本的に格変化のない言語もある。

さて、一般の人と語学マニアとに分けるとすると、筆者は後者に属するが、筆者の頭はコンピュータではないので、今まで学習した言語の格変化のパターンをすべて把握しているわけではない。この言語のこの格は大体こんな形というアバウトな感覚でしか覚えていない。正確な格の特定は、辞書を見て判断しているのが実情で、読解する分には、大体こんな程度の覚え方で足りている。とはいえ、フィンランド語の格変化は実に複雑で、筆者のようなアバウトな覚え方では辞書形が特定できず、苦慮しているのが実情である。

(ゴガク・マニアシュヴィリ)

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

摺る

播鉢からみえる中世の社会
備前歴史フォーラム資料集
(備前市歴史民俗資料館紀要 12)

備前市教育委員会生涯学習課、備前市歴史民俗資料館編・刊
2010 125, 7頁 30cm <請求記号 DL561-J14>

焼き物といえば、皿、茶碗や壺などがまず思いうかぶ。これらは飲食の際に使用されるだけでなく、美術工芸品としての価値をもつこともある。それに対し、実用的な調理器具であり、通常は台所から食卓に出ることもなく、鑑賞の対象にもならないすり鉢は、どちらかという土地味な存在である。

ところが日本の代表的な陶器ブランドのひとつである備前焼の歴史を考える上で、すり鉢は欠かせない存在である。鎌倉時代から室町時代にかけて、備前焼の主力製品として大量に生産され、広域にわたり流通し、備前焼の広まりに大きく貢献した。その品質は、「落としても割れぬ」とうたわれたように堅牢で、すり目もつぶれず長持ちする良質なものであったといわれている。

本書は、播鉢をテーマとして2011年1月22日に岡山県備前市で開催された備前歴史フォーラム2010「“摺る”～播鉢からみえる中世の社会～」の報告集である。同フォーラムで発表された、室町時代の飢饉と社会を論じた基調講演とすり鉢に関する研究報告4本のほか、備前焼全般を主題とした報告7本が収録されているが、ここでは、タイトルに即してすり鉢に関する研究報告の内容を紹介したい。

陶磁器の研究家である荻野繁春氏による報告は、日本だけでなく中国やヨーロッパにおけるすり鉢の歴史を大きな視点で総合的に俯瞰したものである。

考古資料を用いて出土状況や形状を考察しているだけでなく、当時の料理書を分析し、どのようなレシピに用いられたかなど、食文化史的な視点からの検討も行っている点が面白い。

食との関係でいうと、日本のすり鉢の変遷も興味深い。昔のすり鉢は現在と異なり、全面にすり目があるわけではなかった。中世ではすり目が少なめで、近代になると多くなる。このような時代による違いを機能性の面から明らかにするために、備前すり鉢を復元して実際に食材をすりおろして検証した実験の報告がある。その結果は、粉食や団子・餅など粘り気のあるものには中世のすり鉢が適しており、胡麻や味噌などには近代のすり鉢が適しているというものであった。

近年の研究では、良質で広域に流通していた備前すり鉢と、あまり質の良くない土着のすり鉢との関係が注目されている。本書の報告でも、両者の出土量の違いから鎌倉時代と室町時代の流通・生産体制の変化を見出している。

すり鉢に関する最新の研究成果について知ることができる本書であるが、フォーラムの開催趣旨、報告の質疑応答やパネリスト討論も収録されていれば、記録集としてより価値あるものになるのではないかと思われる。

(調査及び立法考査局国土交通課 ^{すなだ}砂田 ^{あつこ}篤子)



ブリキとトタンとブリキ屋さん

加藤忠一著 ブイツーソリューション刊
著者メールアドレス chu3@gallery-pastime.com
2009.11 301頁 20cm <請求記号 PD295-J3>

ブリキもトタンもなじみ深い言葉だが、「ブリキとは何か、トタンとは何か」と問われてとっさに答えられる人は、どのくらいいるだろう。

実はブリキとトタンは、非常に近い仲間である。ブリキとは、鉄より錆びにくいスズを鉄表面にめっきしたもの。トタンは逆に、鉄より錆びやすい亜鉛をめっきし、その錆で鉄の腐食を防ぐもの。いずれも代表的な鉄鋼表面加工技術である。

そのため、これらの技術に関する専門書は多く、基本的な辞書にも掲載されている。しかし、見当たらないのは、これらの技術で作られた製品に関する資料である。決して主要製品がないわけではない。特に戦後日本では、ブリキ玩具製造は主要産業の一つであり、トタンによる住宅建築も盛んだった。そのため、「ブリキのおもちゃ」や「トタン屋根」は、時代を代表する単語となった。しかし、これ以外の製品に関する資料を探そうと思うと、なかなか見つからないのである。

そんななか、さまざまなブリキ・トタン製品を丁寧掘り出したのが本書である。黎明期から現在までの、ブリキ・トタンの産業史をわかりやすく解説し、次にさまざまなブリキ・トタン製品を紹介するという構成をとって、全体を製品史としてまとめあげている。本書の著者が鉄鋼表面処理技術の専門家であるため、技術と製品とが滑らかに結び付けられ、解説されているのも、魅力の一つである。

代表的なブリキ製品として取り上げられているのは、家庭用品や文具、食品・飲料容器、石油缶、ドラム缶などである。また、トタン製品として取り上げられているのは、屋根や配管、雨戸などの建材、バケツ、



湯たんぼなどの生活用品、ガードレールなどである。いずれも、特有の外見上の美しさと、密封性や耐久性といった機能性の両面にわたって、その来歴が説明されているため、素材の特徴を活かして、生活の中で重宝され、さまざまな用途に応用されてきたことがうかがえる。各製品の写真も多く、註や参考資料も充実している。

珍しい製品の紹介としては、18世紀のイギリスで作られた、漆器と同じような塗装をブリキ細工で実現する製品や、ネジも留めもない状態で密封性を維持することを求められる、日本茶の茶筒などが取り上げられている。また、町でよく見かけたブリキ屋が製造業へと変遷していく歴史や、身近な建材だったトタンが、やがて、冷蔵庫や自動車に使われる亜鉛メッキ鋼板へと発展するダイナミックな展開なども、とりわけ興味深い。表面加工技術への造詣も深い、専門家ならではの視点といえよう。

本書は、古くから受け継がれ、研究を重ねられてきた技術の歴史が、身近な生活の歴史に重なる感動を教えてくれる貴重な資料である。

(利用者サービス部科学技術・経済課 伊藤 直美^{いとう なおみ})

*送料340円で入手可能(残部わずか)。著者に問い合わせを。

法規の制定

【規則第7号】 科学技術関係資料整備審議会規則の一部を改正する規則

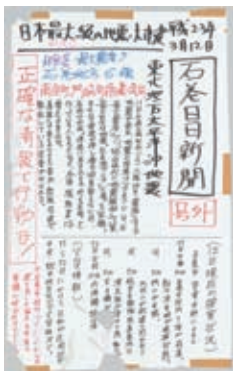
(平成23年10月3日制定)

「科学技術関係資料の整備計画」を調査審議する科学技術関係資料整備審議会を、電子情報資源を含む「科学技術情報の整備計画」を調査審議する科学技術情報整備審議会に再編するため、規則名ならびに審議会の名称、目的および庶務に関し所要の規定を整備した。平成23年11月1日から施行された。

この法規による改正後の科学技術情報整備審議会規則（昭和36年国立国会図書館規則第3号）は、国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>関係法規（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws.html>）に掲載されている。

お知らせ

■ デジタルコンテンツの拡大 —『石巻日日新聞』号外の デジタル画像を提供開始— —デジタル化した蔵書 34万点の提供開始



10月18日、『石巻日日新聞』の号外6点*のデジタル画像の提供を開始しました。これは、石巻日日新聞社のご協力により、東日本大震災に際して貼り出された手書きの壁新聞を借用してデジタル化したものです。

また、10月25日までに、デジタル化した蔵書約34万点が利用できるようになりました。新たに提供を開始したものは、図書約10万8千冊、雑誌約18万2千冊、古典籍資料約5万1千点です。このうち、著作権の処理前のもは、国立国会図書館の施設内のみでご覧いただけます。さらに、これまで施設内限定で提供していた『醫學中央雑誌』の創刊号（1903年）から410巻（1983年）までが、発行者の許諾に基づきインターネット上で利用できるようになりました。これにより、デジタル化した蔵書の提供総数は、約137万点（うち、インターネット上で提供するものは約29万点）となりました。

今後もさらなる充実を図ります。どうぞご利用ください。

*国立国会図書館は、紙の号外は所蔵しておりません。

○URL <http://dl.ndl.go.jp/>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>電子図書館>デジタル化資料（貴重書等）

○お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 電子図書館課 ネットワーク情報第一係

電子メール dl@ndl.go.jp

■ 「日本全国書誌」が 変わります

日本の出版物の記録である「日本全国書誌」は、平成24年1月6日以降、NDL-OPACを通じて提供します。システム入替えに伴い、11月12日から平成24年1月5日まで、提供を休止しています。新しい「全国書誌」については、今後、ホームページや本誌で詳細をお知らせします。

ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

○お問い合わせ先

国立国会図書館 収集書誌部 収集・書誌調整課

電話 03 (3581) 2331 内線24506

お知らせ

■ 年末年始の ご利用について

○年末年始の休館

次の期間、休館いたします。

東京本館・関西館

平成23年12月28日（水）～平成24年1月5日（木）

国際子ども図書館

平成23年12月28日（水）～平成24年1月4日（水）

*国際子ども図書館の「第一資料室」「第二資料室」「子どものへや」「世界を知るへや」は、1月5日（木）まで休室いたします。

○NDL-OPACを通じた複写申込み

現在のNDL-OPACからの遠隔複写申込みは、12月16日（金）まで可能です。

12月17日（土）～1月5日（木）の期間は、システム更新のため複写申込みの受付を休止し、1月6日（金）から新しいNDL-OPACで受付を再開します。

*新しいNDL-OPACはURLが変わりますのでご注意ください。

<http://ndlopac.ndl.go.jp/>

○来館申込みによる後日複写

平成23年の最終開館日までに複写製品の受取りを希望される場合は、下の表に示した日までにお申し込みください。ただし、分量が多い場合や複写方法によっては、さらに時間をいただくことがありますので、お早めにご来館ください。

複写の種類	東京本館	関西館	国際子ども図書館
電子式複写	12/24(土)	12/24(土)	12/20(火)
マイクロフィッシュからの引伸印画	12/24(土)	12/24(土)	12/20(火)
マイクロフィルムからの引伸印画	12/24(土)	12/24(土)	12/20(火)
フィルムからフィルムへのプリント	12/24(土)	12/17(土)*	12/16(金)
フィッシュからフィッシュへのプリント	12/24(土)	12/17(土)*	12/16(金)
撮影によるネガフィルムの作製	12/24(土)	12/17(土)*	12/16(金)
撮影からの引伸印画	12/17(土)	12/14(水)*	12/15(木)
撮影からのポジフィルム作製	12/17(土)	12/14(水)*	12/15(木)

*受取方法は郵送のみで、期日までの受付分が年内の発送となります。



お知らせ

■ 歴史的音源の 配信試行にあたり 参加館を募集します

平成24年1月から、「歴史的音源」の公立図書館への配信を試行します。試行にあたり、参加館を募集します。

歴史的音源とは、1900年初頭から1950年頃までに国内で製造された初期のレコード（SP盤）等を歴史的音盤アーカイブ推進協議会（HiRAC）がデジタル化したものです。平成23年10月現在、約2万点を国立国会図書館の施設内で提供しています。このうち、著作権および著作隣接権保護期間が満了した約500点はインターネット上でも公開しています。

配信試行の参加館には、著作権および著作隣接権保護期間内のものを含めたすべての音源を配信します。各参加館は、それらの音源を施設内で提供することができます。

今後、歴史的音源の提供数は順次増加し、最終的には約5万点となる予定です。ぜひご参加ください。

- 対象 図書館法（昭和25年法律第118号）第2条が定める公立図書館。
*インターネットに接続可能な、所定の条件を満たしたPCが必要です。事前に、ネットワーク環境、データの複製や送信を防止する措置などについてチェックリストでご確認いただきます。
- お申込方法 12月28日（水）までに、ホームページに掲載している参加申請書および「PC・ネットワーク環境チェックリスト」を電子メールでお送りください。
- お申込み・お問い合わせ先
国立国会図書館 関西館 電子図書館課 歴史的音源担当
電子メール rekion4Lib@ndl.go.jp

※詳細は、ホームページをご覧ください。今後の募集についても、決まりしだいこのページでお知らせします。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 電子図書館 > 歴史的音源 > 公立図書館への歴史的音源の配信試行提供に関するページ

URL <http://dl.ndl.go.jp/ja/rekion4Lib.html>

お知らせ

『国際子ども図書館調査研究シリーズ』を創刊しました



子どもの読書活動推進に取り組む方々の参考となるよう実施している調査研究プログラムの成果をまとめた『国際子ども図書館調査研究シリーズ』を創刊しました。

第1号のテーマは「児童サービス研修のいまとこれから」で、平成22年度児童サービス協力フォーラム（東日本大震災のため中止）のための質問紙調査「都道府県立図書館等における児童サービス関連研修実施状況調査」の結果を分析したものです。国際子ども図書館ホームページ上で全文をご覧になれます。

- 国際子ども図書館ホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/>) > 子どもと本の情報・調査 > 国際子ども図書館調査研究シリーズ
URL <http://www.kodomo.go.jp/info/series/index.html>

アジア言語OPACにインドネシア語・マレーシア語図書の書誌データを追加しました

関西館で所蔵するインドネシア語・マレーシア語図書3,760タイトル（3,931冊）の書誌データをアジア言語OPACに追加しました。

現在、アジア言語OPACでは、中国語、朝鮮語、モンゴル語、タガログ語、インドネシア語、マレーシア語、ベトナム語、タイ語、ヒンディー語、サンスクリット語、ウルドゥー語、ペルシア語、アラビア語、トルコ語（オスマン・トルコ語を含む）のあわせて14言語の図書書誌データを提供しています。

※中国語、朝鮮語以外のアジア言語の逐次刊行物は、ローマ字翻字によりNDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）で検索してください。

※アジア言語OPACは、平成24年1月6日にNDL-OPACに統合する予定です。アジア言語の図書、雑誌・新聞もNDL-OPACで検索できるようになります。

- URL <http://asiaopac.ndl.go.jp/>

No.	書名	著者	発行年	冊数	言語	利用状況
1	Indonesia: Sejarah, Geografi, Kebudayaan, Politik, Hukum, dan Sosial. -- 1. Jilid 1. -- Jakarta: Balai Pustaka, 2004. -- 300 p. -- (Serikat Islam Indonesia)		2004	300	インドネシア語	利用可
2	Kamus Aceh Indonesia / Aceh-Indonesian -- [et al.] -- Vol. 1 -- Serai Pustaka, 1999. -- 300 p. -- (S. 000)		1999	300	インドネシア語	利用可
3	Kamus Aceh Indonesia / Aceh-Indonesian -- [et al.] -- Vol. 2 -- Serai Pustaka, 1999. -- 300 p. -- (S. 000)		1999	300	インドネシア語	利用可
4	Kamus Aceh Indonesia / Aceh-Indonesian -- [et al.] -- Vol. 3 -- Serai Pustaka, 1999. -- 300 p. -- (S. 000)		1999	300	インドネシア語	利用可

お知らせ

■ 新刊案内

国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 729号 A4 176頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

<特集 農業者直接所得補償制度の評価と課題>

- ・日本農業・農村革進の課題と展望
- ・戸別所得補償制度の課題と展望
- ・EUの直接所得補償制度の評価と課題—フランスを中心に—
- ・EUの直接所得補償制度の評価と課題—東欧の視点から—
- ・秋田県大潟村における戸別所得補償制度導入の意義と課題
- ・「農業者戸別所得補償制度」をめぐる水田地帯の実態
- ・新潟県における農家直接所得補償の動向
- ・島根県における戸別所得補償と集落営農



参考書誌研究 第75号 A5 281頁 半年刊 3,780円 発売 日本図書館協会

<書誌>

- ・日本漢詩翻訳索引

※『参考書誌研究』は、本号をもって定期刊行を終了し、以後不定期刊となります。

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

CONTENTS

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
Kashi : special edition written and produced by Izuru Shinmura
- 04 Materials recently designated as rare books : 45th committee on designation of rare books
- 16 Universal access to all knowledge : lecture by Mr. Brewster Kahle
- 20 From Exhibition "Graphic Magazines in Meiji, Taisho and Showa Eras"
 Modern printing technology (1) Line engraving (relief printing) and wood engraving
- 24 Essay on languages (10) Declension
- 15 <Tidbits of information on NDL>
 Maintaining databases : Minutes of the Diet /
 Index Database to Japanese Laws, Regulations
 and Bills
- 25 <Books not commercially available>
 ○ *Suru : suribachi kara mieru chusei no shakai :*
Bizen Rekishi Foramu shiryoshu
 ○ *Buriki to totan to burikiyasan*
- 27 <NDL News>
 ○ Laws established
- 28 <Announcements>
 ○ More digital contents now available : digitized
Ishinomaki Hibi Shimbun extra edition and 340
 thousand digitized materials
 ○ Japanese National Bibliography to be renewed
 ○ Library services at the year-end and New Year
 ○ Call for participating libraries : trial
 distribution of the Historical Recordings
 Collection
 ○ *ILCL Research Series* launched
 ○ Bibliographic data of books in Indonesian and
 Malay added to the NDL Asian Language
 Materials OPAC
 ○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成23年11月号 (No.608)

発行所 国立国会図書館
 編集者 山田敏之
 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
 電話 03 (3581) 2331 (代表)
 F A X 03 (3597) 5617
 E-mail geppo@ndl.go.jp

平成23年11月20日発行 定価525円
 (本体500円)

発売 社団法人日本図書館協会
 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
 電話 03 (3523) 0812 (販売)
 F A X 03 (3523) 0842
 E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 「刊行物」 > 「国立国会図書館月報」でご覧いただけます。



『花木写生』から「茶梅ノルイ」
牧野貞幹画 2冊（合1冊） 26.5×19.3cm
掲載箇所は吉田良林筆
<請求記号 寄別3-6-3-1 >

国立国会図書館月報

平成23年11月20日発行（毎月1回20日発行）
11月号通巻608号

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525円（本体 500円）